



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	【仮称】ラピスタ熱海テラス 新築工事 F棟	BEE	1.5	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.6	/5		ふつう	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0	/5		ふつう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.5	/5		ふつう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.2	/5		ふつう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		得点	3.6
<p>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</p> <p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ③共)スーベニアで無線調光、宿泊)客室で無線調光 ④給水汚水雑排水管の主要用途3種についてB以上で、Eは不使用</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦建物の断熱を適切に配し、外壁や窓を通しての負荷に配 ⑩運用・維持・保全の基本方針を定めて建築主へ提出している</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水型便器や水栓を採用している ⑫断熱材: 休憩スペース床、ビニル系床材: 客室WC床 ⑬内装が乾式工法で分別性に配慮、フリーアクセスフロア採用 ⑬ODP=0.01未満かつ、GWP=50未満の断熱材を使用</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備</p> <p>3.2 3.2.1 ③ 昼光制御</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>2 ⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>3 ⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>4 4.1 ⑩ モニタリング</p> <p>4.2 ⑩ 運用管理体制</p> <p>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水</p> <p>1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>2 2.1 2.1.1 ⑫ 材料使用量の削減</p> <p>2.1.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>2.1.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.1.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.1.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>2.1.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤</p> <p>3.2.2 ⑬ 断熱材</p> <p>3.2.3 ⑬ 冷媒</p> <p>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>	3.6	
	<p>"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)</p> <p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性</p> <p>2.1.2 ⑯ 免震・制振性能</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備</p> <p>2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>2.4.3 ⑰ 電気設備</p> <p>2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</p>	3.0
		<p>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)</p> <p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり</p> <p>3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ</p> <p>Q-3 3 3.1 ⑳ 地域性への配慮、快適性の向上</p>	3.5
	<p>"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/㉒敷地内温熱環境の向上) ㉑景観条例に則した建物形状、植栽による良好な景観形</p> <p>Q-3 1 ⑳ 生物環境の保全と創出</p> <p>2 ㉑ まちなみ景観への配慮</p> <p>3 3.2 ㉒ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>■敷地外環境対策 (㉓温熱環境悪化の改善)</p> <p>LR-3 2 2.2 ㉓ 温熱環境悪化の改善</p>	3.2	

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ラビスタ熱海テラス 新築工事 F棟	階数	地上17F
建設地	熱海市東海岸町85-2	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	518人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	ホテル、集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年5月 予定	評価の実施日	2021年5月7日
敷地面積	仮想敷地 1,927㎡	作成者	(株)佐野建築研究所
建築面積	744㎡	確認日	2021年5月7日
延床面積	10,328㎡	確認者	(株)佐野建築研究所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 83%
③上記+②以外の 83%
④上記+ 83%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.3

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.1

音環境	3.8
温熱環境	2.5
光・視環境	3.3
空気質環境	3.3

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.3

機能性	3.7
耐用性	3.0
対応性	3.2

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.5

生物環境	3.0
まちなみ	4.0
地域性・	3.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.6

建物外皮の	4.6
自然エネ	3.0
設備システ	3.6
効率的	3.3

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.3

水資源	3.4
非再生材料の	3.4
汚染物質	3.3

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2

地球温暖化	3.6
地域環境	3.0
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>これはCASBEE静岡2016年版による評価結果です。熱海という斜面地より海を望む立地から、欧州の海岸線のリゾートをイメージしたコンセプトとして計画している。石や天然素材の他、耐久性の高い材料を使用し、ライフサイクルコストの低減を考慮している。</p>	<p>その他</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>昼光率を高めに設定し、また、カーテンや庇を採用するなど、光・視環境に配慮している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>建物全体のコンセプトや機能が明確であり、内装計画に反映することにより心理性・快適性に配慮している。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>緑地を設けることにより、良好な景観を形成している。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>ノンフロン断熱材を採用するなど、汚染物質含有材料の使用を回避している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>消費エネルギー量削減により運用時のLCCO₂排出量低減に配慮している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される